

## 日本小児感染症学会若手会員研修会第7回浜名湖セミナー

## 本年のセミナーの概要

田中敏博\* 笠井正志\* 橋本浩一\* 多屋馨子\*

水戸、安曇野、磐梯熱海、瀬戸内と、全国を探訪してきた若手セミナー。第7回となる今回は、静岡県の浜名湖のほとりの観光地、館山寺で、全国から31名の「若手」をお迎えして開催しました。

第1回より開催概要に掲げてきました本セミナーの目的には、次のようにあります。

「小児感染症学/免疫学を志す若手医師に、その基礎と最新の知見を学ぶ機会を提供することにより、将来のこの領域を背負って立つ人材を育成することを第一義とする。あわせて、お互いの親交を深め、情報交換と今後にわたる連携の礎を築くことを期待する」

これを達成するため、「グループワーク」と「懇親」をプログラムの2本柱としてきました。

前者を支えるシステムとして、第6回より導入したジュニアチューター制度を今回も継承し、セミナー参加経験者である6名の若手・中堅の先生方にご活躍いただきました。グループワーク(資料1)に取り組む熱気は、後のページにあります各グループの論文のなかから感じとっていただければと思います。ジュニアチューターも参加者も、日常業務で忙しいであろうなか、インターネットなどを介した事前のディスカッションから、当日はもちろんセミナー後まで、それぞれのテーマを追求していただきました。

懇親の部も抜かりはありませんでした。恒例となった有志による前夜祭、初日の夕食会、夜の研

## 資料1 各グループのテーマと担当ジュニアチューター

- 
- A：5年で50%？ 経口セフェムは削減できるか？（荘司先生）  
 B：みなおそう、マクロライドの使い方（竹内先生）  
 C：焦らない、迅速検査の使い方～適応と限界を知る～（阿部先生）  
 D：侮れない百日咳に立ち向かう方法（富樫先生）  
 E：今だからこそ考える、B型肝炎（伊藤先生）  
 F：麻疹に続け！ 風疹・Eliminationへの道（鈴木先生）
- 

修後の懇親会、そしてセミナー終了後、浜松駅前で打ち上げを兼ねた鰻を食すランチ会と、時間は限られていましたが、食とセットで全国の仲間とあれやこれや、交流を深めてくださったものと思います。全国からもち寄せられた「一人一品」をつつく楽しみも、例年以上の充実度でした。

11月に岡山で開催された学術集会においても、参加者どうし、再会を喜び合う場面をあちこちらでみかけました。セミナーで身につけた知識、情報を大切にしていこうと並んで、いやそれ以上に、そこで培ったつながりを今後も長く保ち、発展させていっていただきたいと願います。

一方で、セミナー当日だけでないグループワークの実施方法、チューター陣のかかわり方、参加者の事前の期待と実際のプログラムの内容との齟齬、1泊2日の弾丸セミナーとも称すべき日程など、見直していきべき問題点が明確になってきたことも事実です。今後、よく検討し、より満足度の高い若手セミナーへと成長していく必要性も痛

\* 日本小児感染症学会研究教育委員会若手セミナー担当

<p>日本小児感染症学会 理事長 堤 裕幸 様 研究教育委員会委員長 森内 浩幸 様</p> <p>拝啓</p> <p>秋冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。 過日のご利用、誠にありがとうございました。また、御礼状まで頂戴し重ねて御礼申し上げます。</p> <p>将来を担う若いお医者様達が当館で勉強会を開催して頂いたことを誇りに思います。 また、夜遅くまで議論・研修されている様子を拝見し、医療に携わる方々の大変さと 重要さ、貴会の充実ぶりを肌で感じた次第でございます。</p> <p>浜名湖の片隅にある小さい宿ですが、いつの日かまたお役に立てる機会がございましたら お気軽にご依頼下さいませ。</p> <p>貴学会員のみなさまのご健康と貴会の御発展を祈念致します。</p>	<p>2016年10月吉日</p> <p>敬具</p> <p>浜名湖かんざんじ荘 副支配人 黒田 訓 社員一同</p>
---	---

## 資料 2

感じました。

来年の第8回は、堤前理事長のご厚意により北海道で開催予定です。これまで開催地と参加者の勤務地が連動する傾向がありましたが、初めての地、かつ北海道だからこそ、これまでなかなかご縁に恵まれなかった先生方の参加をお待ちしてお

ります。

今回の会場となった浜名湖・かんざんじ荘のスタッフの皆さんには、ロケーションと同様に最高のおもてなしをいただきました。観光シーズンで他の宿泊客もあって予約がいっぱいのなかで、われわれのための部屋の手配、講義室のセッティング、食事の内容から懇親会の段取りまで、かゆい所に手が届くようなご配慮をいただきました。セミナー後には、励ましのお言葉も添えられた心温まるお手紙も届いています(資料2)。お世話になりました。

最後に、お忙しいなか、運営の補助員としてご活躍いただいた田中さん、柴原さん、日馬先生、募集の段階から受付業務を担当していただきましたエバーメディカの天野さん、吉永さん、例年通り全体を俯瞰してお力添えをいただきました学会事務局の楠さん、高橋さん、皆様に深く感謝申し上げます。これからもよろしく願いいたします。

\* \* \*